

## 市民公益活動ポイント制度・今後の運用について

### 1 令和 2 年度の運用実績 (R2. 12 月時点)

(1) 平成 27 年度～令和元年度までの平均と、令和 2 年度の比較について

| 項 目         | 前年度まで (H27～R1) の平均 | R 2 (12 月時点) |
|-------------|--------------------|--------------|
| ポイント券交付申請枚数 | 20,874 枚           | 4,267 枚      |
| 申請団体数       | 50 団体              | 14 団体        |
| 実施事業数       | 62 事業              | 15 事業        |
| 寄付受領団体登録数   | 54 団体              | 19 団体        |

制度開始から 6 年目を迎え、開始当初から参加していた団体が参加回数の制限を受ける過渡期を迎え、急減した。また、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、「想定されていた対面・集合形式の活動が難しい」という団体からの声もあった。

### 2 参加休止団体へのアンケート調査

(1) 調査目的

前述までの参加団体数の現状に鑑み、活動回数が制限内であっても参加のなかった団体へ向け、その理由及びボランティアなど公益的な活動に継続して参加しやすい環境について、どのような仕組みや制度が理想的か、調査するため。

(2) 調査対象及び実施方法

以下の要件を全て満たした団体へ、郵送により実施。回答は匿名。

- ・令和 2 年度時点において申請回数が 3 回以下
- ・最後の申請が平成 30 年以前（2 年、間があいている）
- ・制度には不参加だが、現在も活動をしている
- ・その他

計 24 団体

(3) 調査期間

令和 2 年 11 月 18 日（水）から 12 月 10 日（木）

(4) 回収状況

回答数 12 団体（回答率 50%）

(5) 質問及び回答方法

**質問 1** 市民公益活動ポイント制度について、参加を継続しなかった理由はありますか？

**質問 2** 今後、市民の方が、ボランティアなど公益的な活動に継続して参加しやすい環境を整備するにあたり、どのような仕組みや制度があったら良いと思いますか。

**回答方法** 選択式。その他（自由意見）も含め最大 3 つまで順位をつけて回答。

(6) 集計結果とそこから読み取れること

回答順位ごとに点数化（1位3点、2位2点、3位1点）し、集計した結果は次のとおり。

| NO. | 質問1：参加を継続しなかった理由について<br>⇒ 原因等、考えられること   | 点数 | 順位 | 比率    |
|-----|---|----|----|-------|
| 1   | 活動の参加者を増やす仕組みにつながらなかった<br>⇒ 制度の機能面、使い勝手 ①   | 13 | 1  | 18.06 |
| 2   | ポイント券の管理(保管・活動参加者への配布・記録等)が大変<br>⇒ ポイントの形態(紙) ②   | 11 | 2  | 15.28 |
| 3   | 団体の規模拡大・人員増加を考えていない。<br>⇒ 規模の現状維持 ③   | 7  | 3  | 9.72  |
| 4   | 翌年度以降も同制度が実施されている事を知らなかった<br>⇒ 広報等の周知方法   | 6  | 4  | 8.33  |
| 5   | 参加手続きが難しいと感じた<br>⇒ 手続きの複雑・煩雑さ   | 6  | 4  | 8.33  |
| 6   | ポイント券を貰うことに、団体として抵抗を感じた<br>⇒ 金銭等ではない価値や経験 ④   | 5  | 6  | 6.94  |
| 7   | 活動参加者からのポイント券の需要がなかった<br>⇒ 金銭等ではない価値や経験 ④   | 4  | 7  | 5.56  |
| 8   | 参加後の実績報告が難しいと感じた<br>⇒ 手続きの複雑・煩雑さ  | 2  | 8  | 2.78  |
| 9   | ポイント券の必要性を感じなかった<br>⇒ 金銭等ではない価値や経験・規模の現状維持 ④  | 1  | 9  | 1.39  |
| 10  | その他<br><ul style="list-style-type: none"> <li>・中・高校生が参加できる仕組みがよい</li> <li>・担当者が代わり制度への参加を失念していた</li> <li>・少子高齢化のため地区でのボランティアが集まらなくなった</li> <li>・毎年同じ活動を続けているのに毎回実績報告が必要なので、リーダーに負担がかかりポイントは不要となった</li> <li>・よく理解できない上に制度が続いている事も知らなかった</li> </ul> 等 | 17 | —  | 23.61 |

以下、選択肢から読み取れること、想定されること

## 参加を継続しなかった理由について

### ① 「活動の参加者を増やす仕組みにつながらなかった」

- ◆過去の報告等でも挙げられた通り、制度の目的が果たされていないこと（団体寄附が多い）が結果として示されたと言える。活動参加者を増やすための運用方法の検討については、No.3の選択肢から、「人を増やす仕組み≠団体の活動支援」という考え方もあるため、新たな仕組みを取り入れる必要があると言える。

### ② 「ポイント券の管理（保管・活動参加者への配付・記録等）が大変」

- ◆ポイント券は金券と類似の価値があるので、これを管理することに負担がかかる。団体の規模・人数等はさまざまであり、NPOとして運営されているものから、同じ目的を持つ仲間同士が集まり、活動を続けている団体もある。制度では、団体の規模には制約がなく、申請のあった活動の内容に対してポイント券を交付しているので、枚数が多い場合は事務等にかかる作業が個人の負担となってしまう場合も考えられる。
- ◆対応策として、『ポイントのWEB化』という、制度のリニューアル案も挙げられるが、導入に対する費用対効果やポイント利用協力施設の調整等、実現までには多くの課題がある。

### ③ 「団体の規模拡大・人員増加を考えていない」

- ◆活動の内容・規模・頻度などは団体ごとに異なり、気の合う仲間同士で、できる範囲で活動を続けることを希望する団体も多くある。制度に参加はしてみたが、結果的に人集めを考えていない団体が、制度の参加から手を引いたという可能性がある。

### ④ 「ポイント券を貰うことに、団体として抵抗を感じた」

### ④ 「活動参加者からのポイント券の需要がなかった」

### ④ 「ポイント券に必要性を感じなかった」

- ◆これらの選択肢については、活動参加者は、対価のようなものを必要としていないということがくみ取れる。市民が自ら公益活動をするのは、活動から得られる経験や人とのつながり・ふれあいなどに価値を見出し、あるいは原動力とし、自己実現につなげると考えることができる。
- ◆この3つの選択肢の点数を合計した場合 10点であり、順位としては3位になる。

| NO. | 質問2：希望する仕組み・制度<br>⇒ 原因等、考えられること   | 点数 | 順位 | 比率    |
|-----|---|----|----|-------|
| 1   | 市民公益活動ポイント制度の継続的な実施<br>⇒ 制度・団体寄付に需要がある  | 15 | 1  | 24.59 |
| 2   | 団体の活動の情報を発信できる仕組み・サービス<br>⇒ 周知・広報の方法 <span style="border: 1px dashed black; border-radius: 50%; padding: 2px;">5</span>               | 13 | 2  | 21.31 |
| 3   | 子供に対する、ボランティア意識醸成プログラム等の提供<br>⇒ 若い世代、次の世代に対する期待や需要 <span style="border: 1px dashed black; border-radius: 50%; padding: 2px;">6</span> | 9  | 3  | 14.75 |
| 4   | ポイント券等に頼らない、新たな仕組み・サービス<br>⇒ 現制度に不十分さを感じている   | 9  | 3  | 14.75 |
| 5   | 補助金等の、金銭的援助<br>⇒ 金銭的支援を必要としている  | 5  | 5  | 8.20  |
| 6   | 特になし  | 3  | 6  | 4.92  |
| 7   | 活動団体の表彰制度<br>⇒ 対価ではない価値   | 2  | 7  | 3.28  |
| 8   | その他<br>・意識向上のため、市職員もボランティアに参加してほしい<br>・ボランティアなどの活動が、市民に十分理解されていない<br>・ポイント制度を継続するならポイント券を使える場所を増やさないで捨てる                              | 5  | —  |       |

### 希望する仕組みや制度について

#### 5 「団体の活動の情報を発信できる仕組み・サービス」

- ◆団体は、人集めや活動に対する理解について、ポイント制度とは別の、何らかの方法により広報手段を手助けすることで、情報を発信し、活動の発展につなげたいと考えているととれる。

#### 6 「子供に対する、ボランティア意識醸成プログラム等の提供」

- ◆活動団体・参加者の高齢化が進むなか、次の世代に活動を繋げるため、若者を取り入れる方法について、普段活動に触れることが少ない世代に対する、何らかのアプローチを希望するものと考えられる。

### 3 制度を支える基金の現状

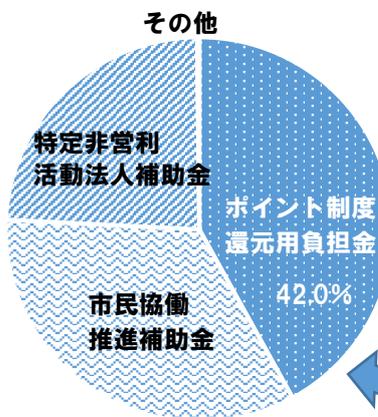
#### (1) NPO支援基金（よこすか元気ファンド）

制度参加団体から活動参加者へ配付されるポイント券は1回の活動で2ポイント（100円相当）であり、各年度の最大発行予定数は40,000ポイントである。還元原資はNPO支援基金から支出している。

この基金は個人や企業による寄附からなり、市民公益活動団体を支援することを目的としている。使途についてはグラフ1のとおりである。

市民公益活動ポイント制度のほかに、市民協働推進補助金、特定非営利活動法人補助金、その他元気ファンド啓発事業等の運営を支えている。

グラフ1 NPO支援基金の使途  
(R1決算:3,844,667円)

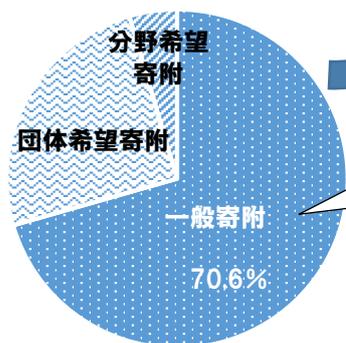


#### (2) 寄付の方法とその促進策について

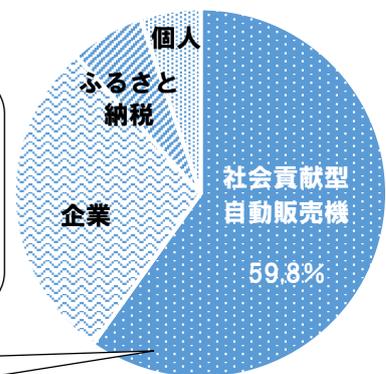
寄附は個人や企業の自主的な気持ちの表れであり、これを要求することについては議論があるが、市民生活課においては、基金制度等のパネル展示やポスターの掲示等、理解を得て寄附の促進を図ることを目的とし、実施している。

寄附の方法はグラフ2の通り、①個人②企業③社会貢献型自動販売機④ふるさと納税があり、寄附収入の比率として高いのは社会貢献型自動販売機である。

グラフ3 寄附の目的別内訳  
(R1決算:3,473,063円)



グラフ2 寄附の方法別内訳  
(R1決算:3,473,063円)



ポイント制度の負担金は、「特定の団体や活動分野ではなく、NPO全般を広く支援する」ことを目的とした一般寄附分から支出

社会貢献型自動販売機の設置台数は、減少する見通し

#### (3) 寄附の現状からみる基金の今後の見通しについて

コロナ禍で、「市民公益団体の支援」を目的としたよこすか元気ファンドへの寄附については、集まりにくい現状がある。また、厳しい財政状況に直面している企業からは、社会貢献型自動販売機について、設置台数変更の申し入れがあり、今後の設置台数は減少する見通しである。

市の一般財源も厳しい状況にあるなか、基金から一般財源への充当額が増える可能性もあり、今後、基金残高の減少は続くと思われる。

#### 4 市民公益活動を支える今後の展開

市民公益活動ポイント制度は、市民が公益活動を行う「きっかけ」や「励み」となり、一人でも多くの方が生き生きと活動に参加できるようになることを目的とした制度である。一定の効果は認められるが、団体に対する寄附の捉え方や広い世代の取り込み等、課題が生じ、目的通り機能しない部分があった。

コロナ禍もあり、制度開始時から変化した団体を取りまく環境や、新たに求められる支援策を整理することを目的とし、制度は休止もしくは廃止とする。

今後、基金やその他の環境に影響を受けるポイント制度に頼ることなく、団体独自で活動を長く継続できることに重点を置き、新たな手法で市民が公益活動を始めるきっかけや、活動になじみのない世代へのアプローチを考えることが必要である。

##### (1) 市民公益活動ポイント制度の休止または廃止

令和3年度は整理期間とし通常通り運用を行い、令和4年度はポイント券の還元のみ行う。

##### 【スケジュール案】

| 令和3年度                 | 1期 | 2期   | 3期 | 備考                           |
|-----------------------|----|------|----|------------------------------|
| ポイント券交付申請             | 募集 |      |    | 通常通り申請受付                     |
| 寄附受領団体登録              |    | 募集   |    | ※寄附受領登録について                  |
|                       |    | 募集※1 |    |                              |
| ポイント券の利用<br>(施設・店舗)   |    |      |    | ・令和2年発行ポイント券<br>・令和3年発行ポイント券 |
| ポイント券還元手続き<br>(寄附換金等) |    |      |    | ・令和2年発行ポイント券<br>・令和3年発行ポイント券 |
| ポイント券の利用期限等<br>について周知 |    |      |    | 第2期の募集開始時期頃を目安として周知開始        |

| 令和4年度                 | 1期   | 2期 | 3期 | 備考           |
|-----------------------|------|----|----|--------------|
| ポイント券交付申請             |      |    |    | ポイント券の発行なし   |
| 寄附受領団体登録              | 募集※2 |    |    | ※寄附受領登録について  |
| ポイント券の利用<br>(施設・店舗)   |      |    |    | ・令和3年発行ポイント券 |
| ポイント券還元手続き<br>(寄附換金等) |      |    |    | ・令和3年発行ポイント券 |
| ポイント券の利用期限等<br>について周知 |      |    |    |              |

### ◆寄附受領団体登録の扱いについて

現行制度上、寄附受領団体の登録は、年度ごとに必要となるので令和4年度に寄付されたポイント券の換金を希望する団体は令和4年度に申請をする必要があるが、ポイント券配布団体の募集を行わない令和4年度については、令和3年度の第3期募集に併せて募集（新規）及び、継続の確認（令和3年度に登録の団体へ照会）をするという方法（表中、※1）をとるか、令和4年度に年間を通し（3期に分けず）募集する方法（表中、※2）が考えられる。

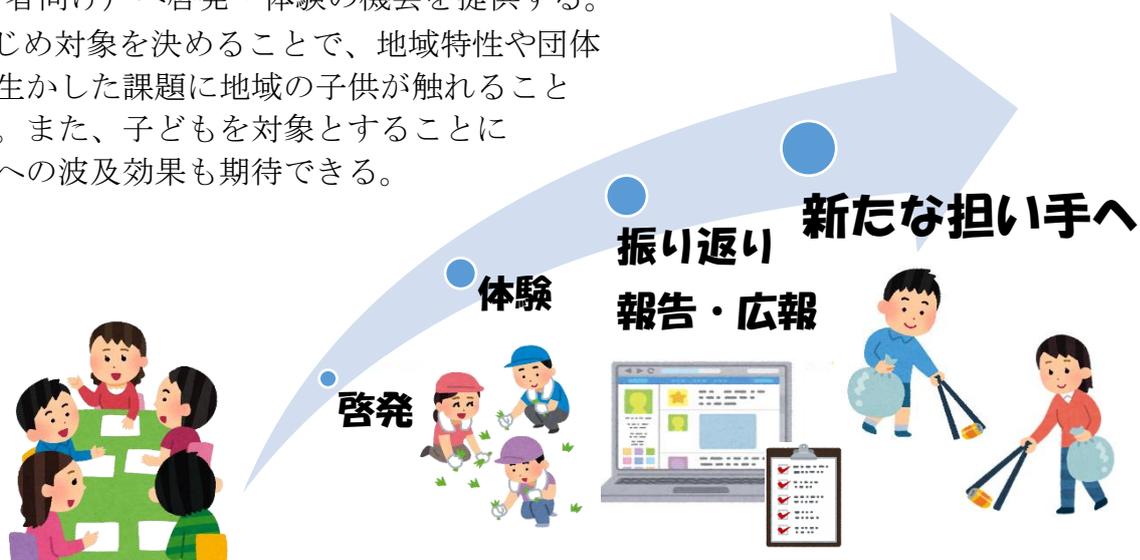
### （2）新たな制度・支援策の検討

参加休止団体へのアンケートの結果によると、高齢化が進む団体は多く、活動を継続できる環境について支援が必要であると考えられる。今後は、市民公益活動ポイント制度に代わる、さまざまな手法を検討していく。以下は、活動の担い手を育成することに重点を置いたプログラム（案）である。

#### ①啓発・体験機会の提供

少子高齢化を受け、将来に渡って起こりうる様々な地域課題に対し問題意識を持つこと、また、行政だけでは難しい問題への柔軟な対応例などについて市内の学生等（=若者向け）へ啓発・体験の機会を提供する。

あらかじめ対象を決めることで、地域特性や団体の強みを生かした課題に地域の子供が触れることができる。また、子どもを対象とすることにより、親への波及効果も期待できる。



#### ②実施後の振り返り

体験で必要なのは、「活動の必要性」や「活動により得られるもの」について理解をすることである。これらを振り返る時間を設け、自主性を育み次の機会へ繋げていく。

#### ③活動報告を交えた団体のPR

子供を交えた活動報告は、団体の広報の場にもなり得る。プログラム終了後は市HP等でこれを公開し、新規参加者の取り込みや活動のPRに繋がるよう支援する。